

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	ヒューマンライフケア大倉湯 (2F)	評価実施年月日	平成22年1月29日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成22年1月14日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>事業所の理念を『ひとりひとりの歴史と個性で輝く我家』とし、その人(職員・入居者様)の今までの習慣・生活歴、その人が持っている個性があるから大倉湯が輝いているという理念を掲げて、入居後も継続できる理念になっている。</p>	○	その人の習慣・生活歴を大切にし、入居前に習っていた習い事などをご家族の支援のもと継続して行われている。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>全職員が理念を理解しての実践までには至っていない。玄関・スタッフルームなどに理念を掲示しいつでも確認可能になっている。</p>	○	全職員が口頭でいつでも理念を言え、理念の共有が行えるよう今後もミーティング・勉強会を使用し指導を行う。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p> <p>入居相談時・入居時にはご家族の方に理念を説明し、理解を得ている。他、運営推進会議で地域住民の方に説明を行い理解を仰いでいる。</p>	○	今後も御家族様には理念の説明をさせていただき、御家族様だけでなく、地域の方にも理念を理解していただけるよう取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>入居者様の外出時・散歩時などで、町内の方や近隣住民の方に出会った際には笑顔で挨拶を交わし、日常的な会話を行うように努めている。</p>	○	事業所内に気軽に立ち寄っていただけるよう環境を整備するなどを行い、外出時・散歩時には笑顔で挨拶をし、日常的な会話を行うよう、今後も継続しておこなっていききたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>地域のお祭り、町内会の行事への参加や見学で地元との交流に努めている。地域の中学校の職場体験などの受け入れもしている。</p>	○	今後も積極的に町内会行事に参加し、地域との交流に努めたい。
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>運営推進会議にて、認知症サポーター養成講座を地域を対象に開催出来る体制にあり、また、認知症高齢者に対する職場内研修を毎月行っており、地域の方も参加可能であることなどを伝えているが、実施・参加には至っていない。</p>	○	地域住民にも気軽に参加していただけるよう、回覧板を利用するなどをし、職場内研修の取り組みや開催日時などを紹介していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を全職員で行うことで、個々の改善点を理解し具体的な改善を行うように努めている。又、外部評価を通して改善点があれば管理者が中心となって全職員に指導を行っている。	○	自己評価・外部評価を活かして、改善箇所は職員全員で取り組んでいくよう、計画的に行っていききたい。
8 ○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	おおむね2ヶ月に1回運営推進会議を行いグループホームの状況・報告を行っているが会議での意見がサービスの向上までには至っていない。	○	運営推進会議の出席者の方から活発的な意見を出して頂けるような、議題・資料などを工夫し提供していくように努めていききたい。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	生活保護課・市の介護保険課の方などは連携をとっているが、運営推進会議以外での交流はほぼなし。	○	市町村との連携を図る為、交流の機会を持ち、サービスの質の向上に取り組んでいききたい。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	管理者・計画作成担当者などは勉強会に参加している。入居者様でも後見人を使われている方がおり、必要になれば支援が可能になっている。	○	管理者・計画作成担当者以外の職員にも、研修会・ミーティングなどを通して学ぶ機会を持ちたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止に関して学ぶ機会を設けてはいないが、申し送り時・ミーティングを通して職員間で情報交換し、随時職員間の対応の問題点などを話し合い、職員のストレス・悩みなども共に聞ける体制になっている。	○	高齢者虐待防止法に関する勉強会・ミーティングを行える機会を持ちたい。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時など、管理者が重要事項説明書・契約書・必要書類などを全て読み上げ、都度説明を行い、理解・納得を得ている。その際に疑問点や不安なところを確認し、納得を得るように努めている。	○	今後も入居者様・御家族様が安心して過ごしていただけるよう話し合いや説明を行っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者様との日々の生活・計画作成担当者によるモニタリングなどで出来るだけ入居者様が意見・不満などを言えるような環境作りに努めている。その際に言われた意見・不満などを職員間で共有し、日々の申し送りやミーティング・ケアプランなどに反映させている。	○	入居者様が意見・不満などを表に表せるよう今後も環境作りなどを行っていききたい。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	金銭管理については、主にご家族様の面会時などに残高や利用する意図などを報告させていただいている。月に1度ご家族アンケートを配布し近況・状態などを報告させて頂いている。又、特変があった際などには都度、電話連絡させていただいている。	○	必要に応じた御家族様への報告・連絡・相談をさらに充実させたい。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様などが意見・不満・苦情などをいつでも相談できるように相談窓口を設置している。相談窓口を設置していることを入居時の契約の際に説明させて頂いている。	○	御家族様が意見・不満を言えるような環境作りを今後も継続して行っていきたい。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1回定期的にユニット毎にミーティングを開催し職員の意見を聞く機会を設けている。その際にあがった意見などを運営に活かしている。	○	今後も月に1回のミーティングを継続し、職員の意見・提案を聞く機会を設け、運営に活かしたい。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	法定要員の他にも、職員を配置して入居者様などの状況の変化に対応できるように努めている。	○	今後も入居者様・御家族様の状況の変化・要望に対応できるよう話し合いの場を設け勤務調整を行っていききたい。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	ユニット間での職員の異動は、運営上必要な分行っている。また、職員が各ユニットの入居者様と顔なじみになるよう、日常的に関する機会を設けている。	○	馴染みの関係を出来る限り継続していくとともに、職員に長く働いてもらう環境作りに努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>年間を通して、職場内研修が開催されている。各職種に合わせた研修を行っている。</p>	○	研修に出来るだけ参加していただくよう、勤務調整や環境作りを行っていききたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>管理者は各管理者会議などに参加し、交流する機会を持っているが、他職員は他の事業所などと交流する機会などは確保できていない。</p>	○	管理者だけでなく、他職員も他事業所などと関わられるように、管理者会議などを通じて交流していききたい
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>社内にて『スタッフ相談室』が設けられている。他に年に1回スタッフアンケートを実施し職員のストレス軽減に努めている。</p>	○	年に1回のスタッフアンケートだけでなく、日頃からストレスを貯めないような工夫をしていきたい
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>運営者(代表者)はスタッフアンケート・表彰制度など用いて、職員の向上心を高めるよう行っている。</p>	○	管理者・職員の日々の取り組みを理解してもらう為にも、運営者との信頼関係を深めていきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>入居相談から入居に至るまで、出来る限り本人の情報を集め、本人の不安や困っている事などを理解し、また直接本人から不安・困っている事を聞き把握するよう努めている。</p>	○	より多くの情報を得る為に、今後も入居者様との信頼関係を作る様努めたい。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>入居相談時、入居に至らない場合であっても、見学などをお勧めし、その際に御家族様が困っている事・不安なことを聞く機会を作り、受け止めるように努めている。</p>	○	今後も継続して行っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時、当グループホームケアマネージャーも同席させて頂き、そのときに必要な介護サービスなどをともに見極め、他のサービス利用も含めた対応を行っている。	○	グループホームだけでなく、他のサービスも受けられるよう、他のサービス内容などをもっと学んでいきたい。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居されたときには、職員は本人・御家族から馴染みの環境・物・出来事などを会話の中から聞き、職員間で情報共有しケアに活かすよう努めている。また、仲良くなれそうな入居者同士を組み合わせるように配慮している。	○	今後も継続して行っていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	調理・食事を担当スタッフ・入居者様とともにし、ともに助け合い、考える事で入居者様の能力・出来る事を実践している。	○	認知症介護の専門性を高め、そのうえで入居者様とスタッフが喜怒哀楽をともにし、入居者様からたくさんの事を学んでいきたい
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	入居者様の情報・状況などの詳細を御家族様に説明し、ともに考えていき、ともにケア(食事介助・入浴介助など)を行っていただけるような関係を築くよう努めているが、全家族には至っていない。	○	これからも積極的に御家族様が多くのケアに参加していただけるような関係作りを築いていきたい
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるよう支援している。	ご本人様と御家族様との関係の理解の為、面接やセンター方式を用いて情報収集を行うとともに、良好な関係が維持向上できるように努めている。	○	今後も同様のことを継続し、ご本人様と御家族様のより良い関係が保てるよう支援していきたい。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	特別な事情がない場合には、これまでの馴染みの人との関係が崩れないように面会などには制限を設けず、これまで大切にしてきた事・物・人を入居前と温度差がないように努めているが、馴染みの場所への外出などの支援は十分に行えていない。	○	天候やご本人様の身体状況にもよるが、ご本人様の望む・行きたい場所へいけるよう努める

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	朝の申し送り・月に1回のミーティングを利用し入居者様の状態・状況を把握し、入居者様同士が関わりを持ち、支えあうことができるように努め、また入居者様1人1人の自立した日常生活を送ることができるようにスタッフ同士でも話し合いを行っている。	○	今後も入居者様の関りを支援しながら1人1人が孤立しないように取り組んでいきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約が終了したあとも、気軽に遊びに来ていただけるよう努めるとともに、介護サービスなどの相談などにも対応するよう体制を整えてある。	○	契約終了後もいい関係を保つように、また介護サービスの相談にいつでも対応できるようにこれからも体制の維持に努めていきたい
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前の相談・申し込みの時点から希望などを把握し、入居後にはモニタリングや日々の暮らしを通して、定期的にニーズの確認を行っている。困難な場合は御家族様の希望や利用者の立場にたったスタッフの想いをニーズとしている。	○	モニタリングや日々の暮らしの中で情報収集をし、ご本人様・御家族様の希望・意向にできるだけそよう努める。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前にセンター方式をご本人様もしくは御家族様に記入していただき、これまでの暮らしが把握できるよう努めている。また日々の暮らしの中での発見・新しい情報などは全スタッフが共有できるよう申し送りやセンター方式のシートに記入するなどを行っている。	○	これまでのご本人様の生活歴や馴染みの場所・生活環境を把握し入居者様1人1人が安心・快適に生活できるよう介護・支援を継続していききたい
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	入居前からの情報収集とともに、1人1人の1日の過ごし方・心身状態・有する能力を把握できるように、入居後もご本人様や御家族様から情報収集を行い、スタッフ間での報告・連絡・相談に努めている。	○	スタッフ間での報告・連絡・相談をさらに密に行い、またはミーティングなど使い、入居者様の1日の過ごし方・心身状態などを把握できるように努めたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画作成時には介護支援専門員が中心となり、スタッフだけでなくご本人様・御家族様・それぞれの担当者から意見を集い作成を行っている。	○	カンファレンスに現時点で御家族様は出席されておらず、今後出席していただけるように働きかける。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監視のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	被保険者証の有効期限、長期目標の設定月、毎年4月、入院などによる状態の悪化時には見直しを行い、身体状況・心理状況・認知症状に即した計画を作成している。	○	介護支援専門員を中心に今後も入居者様1人1人に即した介護計画書を作成していきたい。
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	日々の生活の中での様子などを、個別記録へ記入し申し送り・ミーティングなどを使い、情報を共有・介護計画の見直しに生かしている。また介護支援専門員は毎月個別記録からモニタリングを行い、全スタッフへモニタリング結果を周知させ、気付きや今後の工夫に繋げている。	○	現在の取り組みを継続するとともに、日々の個別記録を充実させ、情報の共有・介護計画の見直しなどに生かしていきたい
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご本人様や御家族様の状況、その時々々の要望に応えられるように努めている。また、御家族様の状況に応じて、病院・外出などの付添いを行っている。	○	今後も御家族様やご本人様の要望に応えられるようにスタッフの配置などを考慮していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○ 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	半年に1回避難訓練を実施し、実際に入居者様も参加され消防員から指導を受けている。毎年年末には、警察へ挨拶をしに行き、グループホームの見回りをお願いしている。	○	管理者が中心となり、さらに地域資源を活用できるよう協力を求める。レクなどのボランティアの介入の検討。
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	ご本人様の必要性に応じて、ディサービスなどの利用を話し合っているが利用には至っていない。他に、同法人のディサービスでの行事や出し物がある際には、スタッフとともに参加させていただいている。	○	ご本人様の意向や必要性に応じて色々なサービスの利用などを今後考えていきたい。
42 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議をおおむね2ヶ月に1回行っているが、他には地域包括支援センターとの協働はない。	○	運営推進会議だけでなく、他の機会を設け協働できるように努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	入居時には、かかりつけ医のご説明をさせていただき、御家族様が納得されたうえでかかりつけ医を決定し、適切な医療をうけられるよう支援している。	○	今後も現状を維持しつつ、入居者様の健康管理に努めていきたい。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	当グループホームにてかかりつけ医が定期的に往診に来てくださっている。いずれも認知症に詳しく、職員・入居者様が相談できる関係にあり、必要に応じて他の医療機関を受信できるよう支援してくださっている。	○	今後も現状を維持しつつ、日々入居者様の状況・状態の把握に努め、医師との連携を円滑に出来るように努めたい。
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所として看護師を2名確保している。日常の健康管理の他に医療活用の支援を行っている。	○	事業所看護師を中心とし、往診医療機関の看護師とも連携などを深めていきたい。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入居者様が入院された際には、病院看護師・ソーシャルワーカーなどと必要な情報交換・相談に努め、また、主治医との連携を図り早期退院に努めている。	○	入居者様が安心して、グループホームに帰ってこられるよう、生活環境を整えるなどに力を入れたい。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居者様・御家族様には『重度化対応・看取りに関する指針』を説明・同意をえている。また今後訪れる終末期・予想される終末期を想定し医師や御家族様と話し合いを行い、方針を共有している。	○	終末期に向け、ご本人様の望む最期を迎えられるように医師や御家族様と相談・連絡を密に行っていきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	かかりつけ医などと報告・連絡・相談を密にし、そのうえで事業所の『出来る事・出来ない事』を見極め終末期ケアを実践している。今後の変化などに備え、御家族様と密に連絡し準備を行っている。	○	事業所として、『出来る事・出来ない事』をさらに明確にし、御家族様・ご本人様の希望にそえる様な終末期ケアを行っていくとともに職員のスキルアップを行っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>入居の際には、御家族様などから情報収集をして、環境の変化によるストレスやダメージを防ぐよう努めている。退居時ご本人様の情報などを関係者に伝え、馴染みのスタッフが訪問するなど住替えによるダメージを防ぐよう努めている。</p>	○	今後も継続して行っていきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>入居者様1人1人に合った声掛け・対応を行うよう配慮をしている。また記録などの個人情報は社内に個人情報の保護方針があり、そのルールに沿って取り扱っている。また、採用時・年に1回、個人情報の取り扱いに関するマニュアル確認とテストの実施を行っている。</p>	○	再度プライバシーの確保の徹底を全職員に周知させ、入居者様1人1人の誇りやプライバシーを損ねることのないようにしていきたい
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>入居者様が、自分の思いや記号を表せるように説明・質問などをする際にはご本人様の力に合わせた説明・質問を行い、説得ではなく、納得していただけるよう支援を行っている。</p>	○	全入居者様が希望の表出や自己決定を行えるよう1人1人に合った支援を今後も継続していきたい。
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>入居前よりご本人様の生活リズムを把握し、入居後もそのリズムに沿って生活していただけるように支援を行っている。グループホーム自体に時間の縛りはなく食事などもご本人様の生活リズムに沿った支援を行っている。</p>	○	入居者様1人1人の生活ペースを把握し、日々のその人らしい暮らしの実践を今後も継続して行っていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、利用・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>起床の更衣時にその方の望む服などをご本人様と確認しながら支援を行っている。理美容に関しては現在、訪問理美容を利用しているが、ご本人様・御家族様の要望があった際には望む店などに行けるよう支援を行っている。</p>	○	今後も継続して行っていきたい。
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。</p>	<p>入居者様の力を活かしながら、職員と一緒に調理の準備をし、一緒に食べ、一緒に片付けを行っている。</p>	○	調理・片付けなど手伝っていただく際、特定の入居者様に限られてきている。その為、全職員・全入居者様が参加できるような工夫をしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒・タバコ・おやつなどに関しては御家族様・医師と相談し健康状態に配慮したうえで、楽しんでいただくよう支援を行っている。	○	今後もご家族様・医師と相談のうえ、ご本人様の嗜好の支援を行っていききたい。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	気持ちよく排泄などが出来るよう、日々の暮らしの中で排泄パターンを把握し、個別の時間毎のトイレ誘導または声掛けを行い、失敗やおむつの使用を減らすよう努めている。また臥床時の方が排尿をしやすい入居者様もおられる為、臥床していただいた後排尿確認を行っている入居者様もいる。	○	入居者様1人1人の排泄パターンの観察などを今後も継続して行っていきたい、気持ちよく排泄が出来るように努めたい。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	遅番職員を21:00まで配置し、入居者様1人1人の希望やタイミングに合わせて、週に2回以上入浴できるよう支援を行っているが、全入居者様の希望には沿えてはいない。	○	その日の入居者様の状態・状況に合わせて入浴の希望に沿えるよう支援を行っていききたい。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入居者様1人1人の生活習慣や状況に応じて、安心して休息・眠れるよう支援を行っている。また安心して休息・眠りがとれない入居者様には、原因を明確にし、改善に努め、状況に応じて医師に相談し対応している。	○	今後も入居者様の安心した休息・眠りの為、日々の情報収集を継続して行い、申し送りやミーティングなどを使い改善方法などを全職員で話し合い、入居者様の安心した休息・眠りを確保できるように努めたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	誕生会を開催したり、季節ごとの行事を行うなど春夏秋冬を楽しんでいただくよう工夫を行っているが日々の暮らしの中での役割・楽しみごと・気晴らしの支援は十分ではない。	○	行事・レクリエーションの計画書を事前に作成し、入居者様に役割・楽しみごと・気晴らしの支援などを行っていききたい。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居者様の能力や希望によりご本人様に金銭管理を行って頂いている。他、管理が出来ない入居者様に関しては、外出時や欲しいものがあつた際に、お金をご本人様にお渡しし、お金を使っていたりいただくなどの支援を行っている。	○	今後も継続して行っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	その日の入居者様の状態・天気の良い日・希望があった際などに近所のスーパーやコンビニ・公園などに外出を行うよう支援している。	○	夏期間については継続して行っていく。冬期間に関しては、外出が困難なことがあり、今後は安全かつご本人様の意向に沿った外出などを行えるよう工夫していきたい。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが言ってみたく普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	事業所として車を確保しておらず、普段行けない場所への外出支援は十分ではない。ご本人様の希望などがあった際には御家族様と相談し、御家族様に対応をお願いしている。	○	今後入居者様の希望に出来るだけ応えられるよう、職員・御家族様と相談し外出支援を行ってきたい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者様希望時には、御家族様と電話などでお話していただくよう支援を行っている。ご本人様の状況などを自ら紙に書いていただき、FAXを送るなどの対応も行っている。	○	今後も継続して行ってい、希望があった際のことを考え、前もって御家族様に了承を得るなどの対応を行ってきたい。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会・訪問などの制限はなく、面会・訪問時には、居室・居間・食堂など好きな場所で過ごしていただいている。いつでも気軽に訪問していただけるよう、職員一同笑顔で迎えさせていただいている。	○	今後も継続して行っていきたい。御家族様などに気軽に来ていただけるよう環境などを整えていきたい。
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束を行わないよう全職員が報告・連絡・相談しながら日々のケアを行っている。研修などを通して身体拘束の理解に取り組んでいる。	○	事業所のミーティング・研修などだけでなく外部研修に積極的に参加し身体拘束をしないケアに取り組んで行きたい。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	ご本人様が望むなどの場合を除き、居室・玄関などには施錠をしておらず、入居者様の状態・行動を理解し、鍵をかけないケアを行っている。	○	入居者様の状態・行動把握を今後も継続し、鍵をかけないケアに努めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	所在確認表を使用し、日中に4回、所在・服の色や特徴を確認している。、夜間は2時間毎の見回りを行っており、入居者様の所在や様子を把握し、安全に努めている。	○	今後も継続して行っていき、所在確認・見守りなどでプライバシーを害する事のないよう安全に配慮していきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	ご本人様の状態を把握したうえで、注意の必要なもの見極めを行い、希望があった際には職員が付き添い、危険を防ぐ支援を行っている。	○	危険なものをただ取り除くのではなく、職員が付き添うなどの対応を今後も行っていきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	月に1回事故ミーティングを行っており、その際に実際発生した事故・今後起こり得る事故を職員で話し合い事故防止に取り組んでいる。	○	ミーティングを今後も開催し、事故を防ぐよう取り組んでいきたい。他、申し送りなどを使用し、入居者様の状態などの報告・連絡・相談を徹底し、情報の共有に努め、事故防止策に取り組む。
70	○急変や自己発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変や事故発生に備えて、職員が応急処置や訓練を行っているが、定期的ではない。	○	定期的な研修・訓練などを行ってほしい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練を年に2回行っており、入居者様も参加して頂いている。他、地域の人々の協力が得られるよう、運営推進会議などを使い働きかけている。	○	年に2回の避難訓練・運営推進会議などを使った協力の呼びかけを継続しておこなっていく。
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居時よりの日々の暮らしの中で知りえた情報をもとに、1人1人に起こり得るリスクを把握し御家族様などに説明を行い、対応策を御家族・医師と相談させていただいている。	○	今後も1人1人起こり得るリスクを職員だけでなく、御家族様・医師と相談し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応を行ってほしい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日々の様子観察とともに、健康管理表にて入居者様1人1人の血圧・熱などを毎日測定し体調の変化や異変の早期発見に努めている。体調の変化・異変があった際には速やかに看護師・他職員・管理者、または医師に連絡し対応を行っている。	○	日々の様子観察や健康管理表によって、入居者様の小さな変化にも気付くよう今後も努めさせていただき、気付いた際には速やかに報告・連絡・相談が行えるように環境整備などに努めさせていただく。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人ファイルには薬表を保管しており、いつでも閲覧可能となっている。医師から処方された薬は看護師が中心となり、管理し、内服を行っているが全職員が全入居者様の薬の副作用・用法・用量についての理解はしていない。	○	研修などを通して、内服薬について全職員が全入居者様の薬を正しく理解するように努めたい。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけに取り組んでいる。	日々の水分チェック表・健康管理表を用いて排便状況を把握し便秘の予防に努めている。他に飲水を多く摂っていただいたり、繊維質のものを提供させていただくなどの工夫に取り組んでいる。	○	入居者様1人1人の排便状況を把握し、便秘予防の取り組みを継続して行っていく。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後には、入居者様1人1人に口腔ケアを行っていただいている。毎月2回訪問歯科が来ており口腔ケアの指導や対応の指導を受けている。	○	今後も継続して行っていきたい。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や水分量を毎日記録し、1人1人に合った量や質を確保している。また1人1人に合った食事の形状や食器を使用するなど工夫を行っている。	○	入居者様1人1人に合った食事形状や水分摂取の支援を今後も行っていく。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎年インフルエンザ接種を職員・入居者様は行っている。感染予防マニュアルを作成し感染予防に努めている。	○	季節毎の感染症の理解を深め、予防に取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	台所の衛生管理として、1日に1回以上台所掃除を行っている。他に、週に1回冷蔵庫掃除を行うよう取り決めがある。食材を安全に使用するように季節などに応じて、納品量や納品物の管理を行っている。	○	食材の使用や管理、台所掃除など衛生管理を徹底し、食中毒予防に努めていく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関の花壇を利用し、花を植えるなど親近感を出すような工夫をしている。	○	冬に関して、玄関横に雪だるま、かまくらを作るなど、親しみやすい環境を作っていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間は常に明るくし、出来る限り窓から陽の光を取り入れている。季節感を出す為、季節ごとの飾りや置物をおくなどを行っている。	○	季節感を出す為、入居者様と一緒に季節ごとの飾りを作成するなど、環境作りを行っていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間と食堂の間に仕切りなどはないが、テレビ前のソファや食堂にて入居者様同士、気軽に会話などを楽しんでおられる。また、ご本人様希望時など1人になりたい時は居室にて過ごして頂いている。	○	共用空間の中で、気のあった入居者様同士が思い思いに過ごせるよう席を工夫するなど、今後も継続していきたい。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	当グループホームとして、火気や危険なもの以外に持ち込み制限は無く、入居の際には、御家族様・ご本人様と相談させていただき、使い慣れた物を持ち込んでいただき、ご本人様が居心地よく過ごしていただけるような環境整備を行っている。	○	今後も入居者様の身体状況や生活歴に配慮し、慣れ親しんだ環境作りを行ってきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	居室・共用空間において、天候や室内温度に応じて、換気をおこなっている。他、共用空間に加湿器を設置し換気・空調の配慮を行っている。	○	今後も継続して行ってきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>グループホーム内は全てバリアフリーとなっており、安全に配慮されている。他、各場所に手すりを設置するなどの配慮を行っている。廊下が長く、入居者様の歩行運動もを行っている。</p>	○	<p>その時々の入居者様の状況・状態に応じて入居者様の安全・自立に配慮し支援を行っていく。現在は居室前には手すりは設置されていないが、必要時には設置可能となっている。</p>
<p>86 ○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>各居室にご本人様の表札・写真をかけ、トイレには大きな字でトイレと分かるよう張り出し、場所を間違えるなどの失敗がないような工夫を行っている。</p>	○	<p>入居者様1人1人の状況・状態に応じ、自立して暮らせるような支援を今後も行っていきたい。</p>
<p>87 ○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>夏季には、入居者様と一緒にグループホーム周りの花の水やりを行ったり、天気の良い日には洗濯物を干し、一緒に取り込むなどの活動をおこなっているが、グループホームにベランダを設置しておらず、入居者様が自由に活動できるような外の空間は確保されていない。</p>	○	<p>自由に活動できる空間は限られているが、限られた空間の中で入居者様が楽しんで活動できるよう、安全に配慮しつつおこなっていきたい。</p>

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>① <del>ほぼ全ての利用者</del></li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんど掴んでいない</li> </ul>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>① <u>毎日ある</u></li> <li>② 数日に1回程度ある</li> <li>③ たまにある</li> <li>④ ほとんどない</li> </ul>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① <del>ほぼ全ての利用者</del></li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① <del>ほぼ全ての利用者</del></li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ <del>利用者の1/3くらい</del></li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② <del>利用者の2/3くらい</del></li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② <del>利用者の2/3くらい</del></li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> <li>① <u>ほぼ全ての家族</u></li> <li>② 家族の2/3くらい</li> <li>③ 家族の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどできていない</li> </ul>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ毎日のように</li> <li>② 数日に1回程度</li> <li>③ <u>たまに</u></li> <li>④ ほとんどない</li> </ul>

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p><del>①ほぼ全ての職員が</del> ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><del>①ほぼ全ての利用者が</del> ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><del>①ほぼ全ての家族等が</del> ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載）

- ・職員一同明るく、楽しい事業所を目指して日々取り組んでおります。その為にも、当グループホームとして特別なルールなどは設けておらず、入居者様の言動や考え方に沿った支援を行っております。職員は入居者様とともに生活し、多くのことを学ばせていただき、入居者様も職員に教える事で自信を取り戻し、生きがいとされております。
- ・終末期ケアの取り組みを行っております。平成20年度に1名の事例があり、主治医（往診医療機関）の協力のもとに看護師が中心となり、医療面のケアを行い、職員は御家族様の『本人らしく・苦しむことのないように』という想いのもと入居者様の生活支援を行いました。他の入居者様がお部屋へ面会に行き、励ましの言葉を掛けたりと入居者様同士支えあう姿が見られました。